

平成 29 年度第 2 回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会議事録

会議名称	平成 29 年度第 2 回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会
開催日時	平成 30 年 1 月 24 日（水）午後 3 時 00 分～ 3 時 45 分
開催場所	門真市役所本館 2 階 第 7 会議室
出席者	（委員長）満永委員長 （副委員長）松宮副委員長 （委員）西村委員、水野委員、三村委員、牧菌委員【出席人数 6 人／全 7 人中】 （事務局）寺西総括参事、清水社会教育課長補佐、石原学校教育課副参事、 山下社会教育課主査、松本社会教育課主査
議題 (内容)	第 6 回門真市中学生海外派遣研修報告及び事業の振り返りについて 第 7 回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストについて
傍聴者数	－（門真市情報公開条例第 6 条第 5 号に定める不開示情報に該当するため、非公開）
担当部署	（担当課名）教育部 社会教育課 （電 話）06-6902-7139（直通）

<事務局>

それでは、ただいまから平成 29 年度第 2 回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会を開催いたします。

本日、委員をお願いしております追手門学院大学 国際教養学部 国際教養学科 講師 原 めぐみ先生は欠席しておりますので、ご報告いたします。

よって、委員 7 名中 6 名が出席していただいておりますので、本委員会が成立していることをご報告いたします。

つぎに、お配りの資料の確認をさせていただきます。

最初に、第 2 回推進委員会議事次第です。

1 ページ、資料 1、門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会委員名簿です。

2 ページ～ 4 ページ、資料 2、門真市附属機関に関する条例の施行に関する門真市教育委員会規則です。

5 ページ、資料 3、門真市中学生英語プレゼンテーションコンテスト応募者数です。

6 ページ～ 9 ページ、資料 4-1、第 6 回コンテスト来場者対象に実施しましたアンケート結果です。

10 ページ～ 11 ページ、資料 4-2、海外派遣研修 OB・OG 対象に実施しましたアンケート結果です。

12 ページ～14 ページ、資料 4-3、第 7 回コンテスト一次審査通過者対象に実施しましたアンケート結果です。

15 ページから 30 ページ資料 4-4、第 6 回海外派遣研修アンケート集計です。

31 ページ、資料 5、めざせ世界へはばたけ事業改善点です。

32 ページ、資料 6-1、第 7 回コンテスト来場者対象のアンケート(案)です。

33 ページ、資料 6-2、第 7 回コンテスト発表者対象のアンケート(案)です。

34 ページ、資料 6-3、第 7 回コンテスト発表者保護者対象のアンケート(案)です。

35 ページ、資料 6-4、第 7 回コンテスト英語教員対象のアンケート(案)です。

36 ページ、資料 7、第 7 回コンテスト進行予定表です。

37 ページ、資料 8、第 7 回コンテスト審査員名簿です。

最後に、水色の表紙の第 6 回門真市中学生海外派遣研修報告書です。

お手元がないものがございましたら、ご連絡いただきますようお願いします。

よろしいでしょうか?特に無いようでしたら、これからの進行を満永委員長にお願いします。満永委員長よろしく願いいたします。

2. 案件 1. 第 6 回門真市中学生海外派遣研修報告及び事業の振り返りについて

<満永委員長>はい。それでは、第 2 回の推進委員会を進行させていただきます。ご協力よろしく願いいたします。案件 1 ということで、第 6 回門真市中学生海外派遣研修報告及び事業の振り返りについて、事務局から説明をお願いします。

<事務局>それではご説明申し上げます。まずは、水色の冊子、第 6 回門真市中学生海外派遣研修報告書 9 ページ目からご覧ください。

第 6 回中学生海外派遣研修は、平成 29 年 7 月 29 日(土)から 8 月 7 日(月)までの 10 日間、第 6 回中学生英語プレゼンテーションコンテストにおいて、優秀な成績を収めた 9 名と引率職員 2 名、添乗員 1 名が同行して、オーストラリア、アデレード市で行いました。研修先はこれまで同様、チャールズ・キャンベル・カレッジです。現地、学校生活体験プログラムを中心に、課外活動、市内見学など、短期間にたくさんの経験を盛り込んだものとなりました。

また、報告事項として、ホストファミリーが初日に来ず、急遽別のホストに受け入れてもらった生徒やホストファミリーと合わずホストを変更した生徒がおりました。

海外派遣研修後は、帰国後交流会及び同窓会を 8 月 27 日(土)に開催しました。同窓会では、海外派遣研修生の研修参加以降の意識動向・現状を確認することや OB・OG の海外派遣研修後の取組、考え方を後輩研修生が聴き、話し合うことで相互に将来の指針にすることを狙いに、プレゼンテーションコンテス

ト、海外派遣研修での経験が今どのように活かされているか、また、今後取り組んでみたいこと等、グループごとで発表してもらいました。

次に、事業の振り返りにあたり、資料3、4、5を使ってご説明させていただきます。まず、5ページ、資料3をご覧ください。第1回から第7回のプレゼンテーションコンテストの応募者数を表しております。第7回の応募者数は、781名で、前回の773名より増加し、第1回に比べると4倍以上の応募数となっております。

次に、6ページ～9ページ、資料4-1、第6回コンテスト来場者対象に実施したアンケート結果です。(7)「コンテストは中学生の英語学習のためになっていると思いますか」との設問に対し、「とてもためになっている」が74.4%、「ためになっている」が23.2%、「あまりためになっていない」が2.4%となっており、回答者のほとんどが「ためになっている」と感じておられることがうかがえます。また、7ページから9ページは自由意見の集約となっておりますので、またご確認ください。

次に、10ページ～11ページ、資料4-2、第1回～第6回海外派遣研修生対象に8月の同窓会時に実施したアンケート結果です。ここでは、②の「10年後のあなたは何をしていますか？」との設問に対し「将来のための専門の大学に行ってるか、アメリカへ行って働いている」や、「フロリダのディズニーで踊っているかCA」をやっているという答えがありました。また③の「10年後のあなたに英語プレゼンテーションコンテストや海外派遣研修での経験は、どう活かされ、どういう役に立っていますか？」という設問には「研修で自分の人間性が変わり、良い方向へ進んでいる」、「英語がもっと上手になりたいと思い勉強をめっちゃしている」という回答が見られ、少なからず、海外派遣研修が研修生の将来の選択に影響を与えていることが分かります。他にも様々な理由が挙げられていますので、ご確認ください。

次に、12ページ～14ページ、資料4-3、コンテスト一次審査通過者対象に実施したアンケート結果です。ここでは、(8)の「この応募が英語学習のやる気向上のきっかけとなっていると思いますか」との設問に対し、「とてもそう思う」が31.3%、「そう思う」が62.5%と、おおむね、「やる気向上のきっかけとなっている」との回答を得ているものの、「あまり思わない」、「そう思わない」と回答している生徒が6.3%います。

「とてもそう思う」、「そう思う」の理由としては「英語で何かを伝えることで、英語を話すことが楽しくなったから」や「このコンテストを受けるために少しでも多く勉強するから」等があり、応募がモチベーションアップに繋がっていることが分かります。「あまり思わない」、「そう思わない」の理由には、「英語が好きでないから」などがありました。他にも様々な理由が挙げられています

のでご確認ください。

最後、31 ページ、資料5をご覧ください。これは、今年度のめざせ世界へはばたけ事業の改善点になります。前回の推進委員会の中で、あがった改善点と実施状況について整理しております。改善点は5点あります。まずは、1. コンテスト実施要項、2. 応募用紙についてですが、こちらはすべて、推進委員会に諮った通りに改善いたしました。次に3. 指導用サンプルに関してですが、現在、内容等検討中ですので、引き続き作成に当たりたいと思います。続きまして4. 一次審査実施要領ですがこちらもすべて推進委員会に諮った通りに改善いたしました。最後に5. 海外派遣事前研修に関してですが、これも推進委員会に諮った通りに改善し、研修の随所で、海外生活における精神面や生活面での支えとなる研修内容を盛り込みました。海外派遣事前研修のアンケートに、研修で「精神面まで教えてくださり、心の支えになった」という意見が見られたこともあり、一定の成果を挙げられたとっております。次年度以降もさらなる工夫を試みたいとっております。

以上、第6回門真市中学生海外派遣研修報告及び事業の振り返りについて終わります。

<満永委員長>ありがとうございました。事務局の方から振り返りということで、派遣研修のこと、応募者数が増加し、過去最高であったということ、またアンケートによる検証の結果、最後に改善点、主に4点の話があったと思いますが、事務局は何か付け足しはございますか。

<事務局>ありません。

<満永委員長>はい。以上4点がありましたが、今のことに関して、ご意見ありましたらいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

<松宮副委員長>非常に貴重な資料、アンケートの結果を確認させていただきました。特に、今回委員の1人として改善に繋がることとして、指摘しておきたいところがあります。まず資料の7ページになります。下から2つ目のところですが、中学生の意見ですが、「最後の質問をもっとゆっくり簡単に」あと、8ページ目の真ん中あたりですが、教員の意見です。「採点の基準に少し疑問が、質問の比重が高すぎないか」その下が、「答える子どもの姿に感動した」それからその下、質問者に関してですが、「聞きづらい発音のうえに単語が中1レベルではないのは辛いと思う」や「中1レベルでわかる程度のものにしてもらわないと辛い」その下、「質問の答え方も、もっと練習しておくべきではないか」それから9ページの上、「プレゼンの後の質問が1人1人レベルが違っているのはどうか」という教員の考え方。それから「発表はよくなっていますが、先生からの質問にはきちんと答える力も付けて欲しいと思っております」というようなフィードバックがきています。こういうところから判断してみると、やはりプレゼ

ンテーションコンテストの趣旨、つまり、パワープレゼンテーションは、会場とのダイナミックなやり取りを行うというところをもう少しこちらとしても発信していかなければならないと思います。それから中学校の英語の授業も、即興性というものも新しい学習指導要領に求められているところではあるのですが、そういうところも含めて、委員として、質問をしていくあり方について、我々もまた検討していきたいと思える良い材料が得られていると思われます。あとですね、こういったアンケートを見てみると、二次審査事前研修では、「英語に関する興味が高まった」という非常に肯定的な部分が出てきています。それから研修そのものに関しても、ネガティブな部分で言えば「もっと時間が欲しかった」とか「もっと参加したかった」とか全て肯定的に捉えられているあたり、引率された職員、先生方のご努力と捉えていいのかなと考えております。ただ、例えばですね。この事業自体が大阪のチャレンジテストや成績とうまくリンクできないんですね。教育っていうのはなかなか。それは逃げることはできないんですけども、こういうアンケート中に出て来る肯定的な意見をうまく利用しながら、外に発信していただければと思っております。

＜満永委員長＞はい。今、松宮委員からご意見いただきましたが、委員の皆さんからご意見はございませんか。三村委員。

＜三村委員＞はい。今のお話聞いてですね。去年の固まってしまう子たちの顔を思い出していたんですけども、すごい緊張の中ですごい混乱しているところをどう見てあげるのかっていう部分は確かに毎年感じております。

＜満永委員長＞西村委員どう思われますか。

＜西村委員＞松宮委員が先ほど仰っておりましたが、ポジティブなアンケートの結果を色んなところに発信すれば良いのではないかと思います。7回目になると思うんですが、すごく充実してきていると思います。アンケートを見ても特に資料4-1は、来られた方の「コンテストいかがでしたか」の質問に99%の方が「良かった」と答えていて、それから「中学生の英語学習の為になっていると思いますか」の質問に98%と、やっぱり外から見に来られて、こういう意見をもらえるのはすごいことだと思います。他にもいいイベントがたくさんあると思います。同窓会時のコメントも素晴らしく、すごいことをやっていると思います。さらに多くの方に、外から見に来て頂けたらと思います。第7回目の募集された応募者の数を見ると、各中学校から100近くの応募があり、均等になりましたよね。今回、広報的にあるいは各中学校への聞き取りなど、大々的に広報したというのは、あるんですか。

＜牧菌委員＞以前から募集の数が注目されているということもあり、各学校に職員が依頼に行き、直接応募用紙を持ち込んでお願いしております。学校もこの数年でこの事業にも賛同いただきまして、取り組んでいただいているという

のがここに表れているのかなと思います。

＜西村委員＞全中学校あげてという感じが、すごく数字的にもバランスよく、いい形になっていると思います。

＜満永委員長＞第1回目の時は、第七中とはすはな中だけで、他はほとんどない状態です。私もこの時ちょうど、学校教育課長をやっておりました。なかなか学校現場でも趣旨が理解してもらえず、事務局として学校へ行って、苦勞したことを思い出します。この事業も我々の文化になってきたんだなど、そんな感じがします。水野委員。何かご意見ありますか。

＜水野委員＞私も今年からこの事業を見せていただいて、プレゼンテーションや海外に行っているところなど、表面的に見える所だけではなく、その過程において、事前研修で大学の皆さんにご協力していただいたり、またOBの門真の生徒たち同士で教え合う風景が見えたり、子ども同士が切磋琢磨する姿っていうのがすごく見受けられて、非常に良い事業だなという感想を自分の担当ながら思っております。先生方のご意見にありましたように、この事業全体を、海外に行ったところやプレゼンテーションの場面だけでなく、全体像としていい形で発信できればいいなと思っております。

＜満永委員長＞こういうアンケート含め、もっと全体像を市民の方々や学校関係に発信していけばいいのではないかと、という意見もあります。さらにこのようなアンケートからも、この検証は非常に役立っていると思います。そういった部分の発信や改善を常に怠らないように心がけていただきたいと思います。ですが、それに対して何かご意見があればお願いします。

＜事務局＞委員の皆さまにいただいた内容を広く市民の方、先生方に知って頂けるよう検討していきたいと考えております。

＜満永委員長＞あと、研修のアンケートの中の8ページ、「中学生になったら英語を頑張ってコンテストに出たい」と、これは嬉しいことです。小学生が中学生を見て、立派だと。いいモデルとして憧れを持ってもらえるなら非常に良いことです。これで人間関係を作ってもらえたらとてもいいです。来場者の中に、小学生はどれくらい来ていたんですか。

＜事務局＞回答数では17人となっていますが、他にも「KEIK」の子どもたちが来ていました。「KEIK」の子どもたちの発表前にちょっとでもお兄ちゃんお姉ちゃんの発表を見るという姿を確認することができました。

＜満永委員長＞小学生は、これから英語が入ってくるという中で、こういう取り組みがきっかけで、英語に対して興味関心を示すということであれば、小学校の先生や小学生がこの会場に来てくれると効果があるのかなと思います。小学生に対して、コンテストの周知は、どのようにやっているんですか。

＜事務局＞周知活動につきましては、パンフレットを各小学校へお送りしてお

ります。この経緯は、発表する子どもたちの卒業した小学校の先生方が「あ、この子出てたんだ！」という話を一度聞いたことがありまして、その時から小学校にもパンフレットをお配りするようしております。それに加えて、コンテストの開催ポスターを毎年作成しており、中学校にはもちろん小学校にも配布しており、5・6年生の教室にも貼っていただくようお願いしております。

<満永委員長>なるほど、そうですか。わかりました。そうやって小学校に英語が入ってくる中で、小学生のモチベーションの向上にも活用できるんじゃないかと思います。あと1点。7ページの一番下にね、「子どもの小さな声が気になりました。できれば中学生の邪魔にならない様に注意して頂く方がいいです。一生懸命プレゼンをしている中学生のことをもう少し考えてあげてください」とあるんですが、なにか対策はあるんですか。

<事務局>施設を借りる中で、親子室という場所もセットでお借りしております。親子室の案内やお子様連れの方に分かるように貼り紙をするなど、工夫できればいいと今聞いていて思いました。

<満永委員長>やっぱり発表者の家族の方からすれば、しっかり聞きたいということもあるでしょう。こういう声も拾いながらより良いものになればと思っております。

委員の皆様、案件1について、なにかご意見はございますか？それでは、引き続き案件2にいかせていただきます。事務局から案件2についてお願いいたします。

2. 案件2. 第7回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストについて

<事務局>第7回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストの進捗状況についてご説明いたします。

昨年7月はじめから9月末まで受け付けましたコンテスト応募者数は、781名となり、一次審査通過者は、63名とし、また二次審査前には一次審査通過者を対象に事前研修を実施しました。二次審査には54名が参加し、18名の本選通過者を決定しました。今年は辞退者が1名出たため次点1位の生徒を繰上げ通過とし、コンテストには18名が出場いたします。

事前研修は、追手門学院大学生、市内中学校の英語教員、海外派遣研修OB・OGのご協力のもと、発表者にまずは「プレゼンテーションとは何か」を学んでもらい、英語でのプレゼンテーションの完成を目指して、今年も4回実施いたします。これまでに、12月26日（火）、1月20日（土）に実施しました。この後、1月27日（土）、2月24日（土）に実施し、25日の本番に臨みます。

20ページ、資料7をご覧ください。コンテストは、2月25日（日）13時より門真市民文化会館ルミエールホール小ホールにて開催いたします。

審査委員長は、松宮副委員長にお願いし、西村委員には質問者をお願いいたします。もう1名の質問者は、追手門学院大学国際教養学部 Ross Eric Miller 准教授にお願いする予定です。

また、今年のコンテストもスカイプ交流を行う予定です。海外派遣研修の派遣先である、チャールズ・キャンベル・カレッジ校とインターネット回線を通じて見ていただきます。

具体的には、開会式終了後コンテストが始まる前に、舞台奥のスクリーンにチャールズ・キャンベル・カレッジ校バルダ副校長を映し出し、松宮副委員長と現地オーストラリアと会話をさせていただきます。

このほか、昨年同様、発表者の問いかけに会場が応えられる雰囲気を作るために、大学生にご協力いただき、コンテスト開始前に前説として、挨拶・応答の練習を取り入れます。

また、審査集計時間の間には、第6回海外派遣研修生2名に海外派遣研修の報告と門真子ども英会話講座「KEIK」の子どもたちに英語の歌の発表をお願いしております。

先輩海外派遣研修生による発表については、アメリカの大学へ進学予定である3期生の木村帆乃夏さんに当日発表をお願いしております。

審査方法は、昨年と同様にしておりますが、質問は、2人の質問者が交互に1問ずつお願いいたします。また、表彰の発表順については、生徒への配慮から学校順とします。

当日、会場来場者に配るパンフレットは、少しでも発表内容を理解できるように、キーワード（英語、カタカナ、日本語訳）と評価基準を載せます。この評価基準の説明については、司会から説明を付け加えます。また、コンテストの経緯を表にし、舞台に立つすべての発表者がよりすぐられた18名であることを表現するようにしております。

今回もより良いコンテストにすることを目的に来場者に対してアンケートを実施いたします。

32ページ、資料6-1をご覧ください。こちらが、来場者に配布するアンケートです。

また、今回も、発表者18名及びその保護者やご協力いただいている英語教員に対してもアンケートを実施いたします。

33ページ、資料6-2をご覧ください。こちらが、発表者18名に対してのアンケートです。コンテスト当日の審査時間中に配付し、記入してもらう予定です。

次に、34ページ、資料6-3をご覧ください。こちらが、発表者18名の保護者に対してのアンケートです。3回目の事前研修時に配付し、4回目の事前研

修時に提出してもらおう予定です。

最後に、35 ページ、資料6-4をご覧ください。こちらが、英語教員に対してのアンケートです。こちらも事前研修時に配付する予定です。

以上で説明を終わります。

＜満永委員長＞ありがとうございます。いよいよ1か月後に迫った第7回コンテストについて説明がありましたが、松宮委員、スカイプ交流ならびにコンテストについてご意見等ありましたらお願いします。

＜松宮副委員長＞スカイプ交流をコンテストの前に持つてくるというのは、非常に会場の雰囲気盛り上げていく効果があると考えております。今年度も同じように説明のあったとおり実施する予定です。サウスオーストラリアは4学期制で、年度の始まりが今年の1月29日と聞いております。授業がスタートして十分準備期間が取れます。ただ、残念ながら日曜日ということで向こうの子どもたちの参加が望めないのが、副校長お1人になると思います。ちょっと早めに連絡を取り、1人でも2人でも子どもたちの声を聴かせてもらえるよう、調整を行いたいと思います。それからインターネットの環境ですので、万が一ということもあります。バルダ先生からのビデオメッセージをいただいて、もしつながらない場合には、会場に来られた方、コンテストに出る中学生に激励の言葉をいただこうと考えております。よろしく願いいたします。

＜満永委員長＞コンテスト前にスカイプ交流で前のスクリーンに向こうの副校長先生を映し出し、お話をするという事です。向こうの子どもさんが1人でも参加できてもらえれば良いと思います。万が一の時はビデオメッセージでお言葉をいただくということです。スカイプ交流等について、西村委員、何かご意見があればお願いいたします。

＜西村委員＞とても楽しみです。

＜満永委員長＞それではよろしく願いいたします。

＜松宮副委員長＞オーストラリアのパスに1人ネイティブの先生がおられます。日本でも教えた事がある先生で、スカイプ交流に是非参加したいということで、かなり長い時間参加できる可能性があるようなので、調整をしたいと思います。今年度は趣向を変えまして、スカイプも1対1のつながりではなく、3地点のマルチリンクでやってみようと思っています。意外と面白い展開になるのではないかと期待しています。ですからキャンベルカレッジの方は最初の挨拶1分程度となります。それ以降については、パスとつなぎ、ネットワークを広げてみようかなとも思っています。まだこれはお約束できませんけども、趣向を変えて、会場も驚き、興奮をしていただければなと思っています。

＜満永委員長＞門真とパスとアデレードと3市が並ぶということですね。

＜松宮副委員長＞パスは西の非常に美しい都市で、アデレードと同じくらい

の規模があります。少しネットワークを広げてみれば面白いかなと思いました。

＜満永委員長＞ こういう今年度の新しい取組を説明いただきましたところで、事務局からなにか意見がありましたら、お願いいたします。

＜事務局＞ 驚いている限りです。

＜松宮副委員長＞ ネットワークの環境が同じですので、問題なく繋がると思います。

＜満永委員長＞ 松宮委員、お手数をおかけしますが、よろしく申し上げます。スカイプ交流以外のコンテストの進行や当日のことについて、ご意見がありましたらお願いします。特にないということで、案件2はこれで終了とさせていただきますが、よろしいでしょうか。

＜事務局＞ 例年、会場にたくさんの方にお越しいただけるようになっております。昨年からは会場整理のスタッフを配置し、その担当を当日ご協力いただけるOB・OGにやってもらっていました。それがとても好評だったので、またお願いしようと考えております。

＜満永委員長＞ それはOB・OG。

＜事務局＞ はい。

＜満永委員長＞ 2期生、3期生などですか。

＜事務局＞ そうです。数人お手伝いに来てくれる予定なので、スタッフとしてご協力いただきます。

＜満永委員長＞ 事前研修の時もOB・OGが来てくれたり、そういう縦のつながりもいいものですね。中三の受験前なのに、事前研修に来てくれて、手伝ってくれる。去年は、受験前の子が手伝いに来てくれたと聞きました。「中三の受験前にも関わらず、事前研修に来ていてもいいの？」と訊くと、その子は、「私もしてもらいましたから、来たんです」と答えたそうです。去年の2月くらいに、本番前日の研修に来て、手伝ってくれる。これが本当に文化になって縦のつながりができる。あとアメリカに行く木村さんも当日駆けつけてくれると聞きました。もう少し詳しく聞かせてください。

＜事務局＞ 3期生の女の子なのですが、海外派遣研修が終わってからそのイメージを持っていたようです。「行きたいから行く」と明確に自分の方向を見出しているのにすごいと感じました。

＜満永委員長＞ これをきっかけにアメリカに留学をしようという門真の先輩がここに駆け付けてくれて、後輩にメッセージを出してくれる。尚且つ、OB・OGは当日のスタッフとして会場整理に協力してくれる。そういう繋がり、文化を期待したいと思っております。

それでは、事務局は、2月25日（日）は、今日委員の皆さまからいただいたご意見を考慮して、コンテストを進行してください。よろしく申し上げます。

＜満永委員長＞以上で本日の案件は終了しました。事務局から連絡することはございますか。

＜事務局＞まず、事務局から1点ご提案させていただきたい件がございます。この門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会の今後のあり方についてなのですが、本事業も立ち上げ当初は、試行錯誤の連続で、委員の皆様の見解を頂戴して、事業の方向性の検討や大きな事務改善をし、プレゼンテーションコンテストにしても、海外派遣研修にしても、回を重ねるごとに事業は安定してきております。それに伴い、本委員会で挙がる改善課題も軽微なものが多くなり、議題の大半が報告事項になっておるのが現状です。地方自治法第138条の4第3項による附属機関として審議していただくより、事業運営の中で、その都度忌憚なく、役割に応じたご意見を頂戴するような形に変えてみてはどうかと考えておりますが、皆様にご意見をお伺いしたいと思います。

＜松宮副委員長＞この会議の冒頭で満永委員長が文化という嬉しい言葉が使われました。伝統というところまできているかということ、まだまだこれから積み上げていかなければならないと思いますが、上手く運営されていると思います。今後大きな変更やもう少しピンポイントに絞っていく改善や教育施策、教育と上手く結び付けていくようなあたりをもっとフットワークを軽くしていけるのであれば、そちらの方がいいのではないかと考えておりますので、よろしくお願いたします。

＜満永委員長＞副委員長もこう仰っておられますので、事務局の提案通りでよろしいでしょうか。

＜推進委員＞異議なし

＜事務局＞ありがとうございます。それでは、本日の委員会をもちまして、附属機関としての審議は終了するというところでよろしいでしょうか。

＜推進委員＞異議なし

それでは、3点事務連絡をいたします。

まず、1点目が、めざせ世界へはばたけ事業の平成29年度事業評価についてです。コンテスト終了後、松宮副委員長、西村委員、原委員には事業評価シートをお送りいたしますので、平成29年度の事業評価をお願いします。

次に2点目が、海外派遣研修の決定についてです。3月23日の第1回門真市議会定例会の議決をもって確定となります。確定後は、海外派遣研修候補生に連絡し、参加意思の確認をいたします。その後、平成30年度4月下旬に保護者説明会を実施し、海外派遣研修のための事前研修を実施していく予定です。

つぎに3点目が、第8回コンテストの日程についてです。平成31年2月24日（日）に開催する予定としております。

＜満永委員長＞ありがとうございます。何か事務局に確認しておくことは

ありませんか。はい。以上をもちまして、平成 29 年度第 2 回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会を終わらせて頂きます。本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございました。